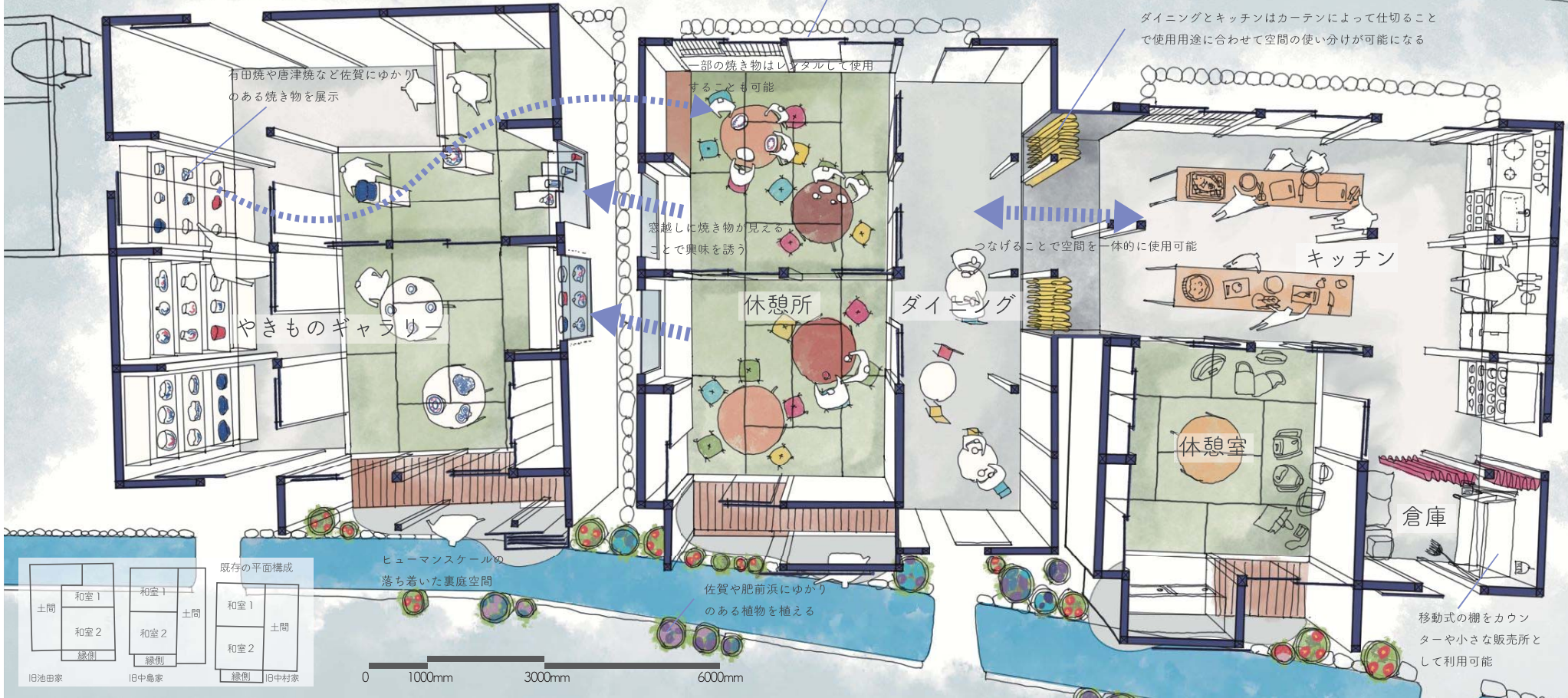
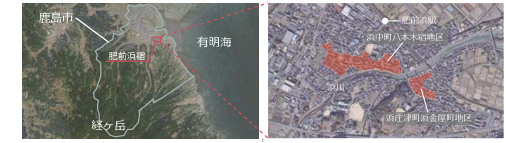


浜シェアキッチン

外観には極力手を加えず既存の状態を残す



1 山と海に囲まれ、豊かな街並みを持つ肥前浜宿



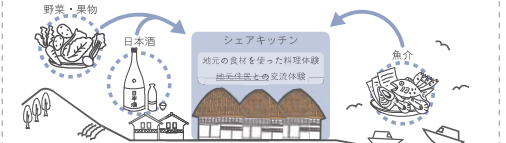
佐賀県鹿島市にある肥前浜宿は、旧長崎藩道多良海道の宿場町として、また有明海を臨む港町として発展した歴史を持ち、豊かな街並みが現在でも残っている。

2 「浜津津町浜金屋町地区」の茅葺三棟



一方で港町として発展し、茅葺町家が集積する浜津津町金屋町地区は歴史的価値が高いものの、人を呼び込む取り組みが十分に行われていない。そこで本提案では現在は利用されていない、茅葺町家が3棟並んだ「茅葺三棟」を敷地として、新たな観光要素となるような利活用を提案を行う。茅葺三棟は建物としての価値が高く、二つの地区の中間付近に位置するため、二つの地区をつなぐ結節点としてのポテンシャルを持つと考えられる。

3 地域食材を用いた料理体験



茅葺三棟を改修し、山と海の恵みを使った料理体験ができるシェアキッチンを提案する。地域の食材や肥前浜の日本酒を使った料理体験を通じて、観光客が肥前浜宿の文化に触れながら、地元住民との交流を楽しめる場を提供する。これにより、浜津津町金屋町地区の観光地としての価値を高め、地域全体の活性化を図る。

4 体験を求める富裕旅行者



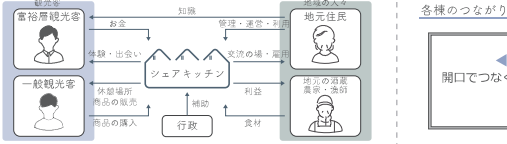
メインのターゲットは、地域ならではの体験やボランティアリズムを求める若い富裕旅行者である。観光客の数が限られる肥前浜において、少人数に地域の価値を最大限に感じてもらい、それに対する対価をもらうことで、経済効果をもたらす。

5 地域と観光が変わる場



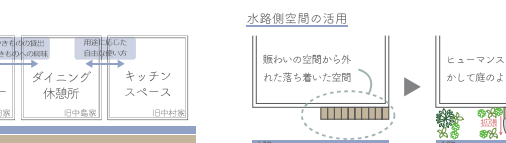
このオープンキッチンは、通常時には地域住民や移住者が集まり、日常の交流の場として利用される。一方で観光客が訪れる際には、料理体験の場として提供され、観光客と地域住民が共存できる柔軟な空間として、目的に応じた使い方が可能となる。

6 シェアキッチンがつなぐ交流と経済循環



シェアキッチンによって観光客と地元住民、地元の生産者のつながりをつくる。それらの連携によって地域資源が活用されたり、雇用の場ができることで、地域内で経済的な循環が生まれる。また、人々のつながりが強化され、新たな地域の活力を生み出す。

7 設計概要



合併浄化槽がある旧中村家にキッチンを設置し北側の道路からの視認性が高い旧中島家をダイニングや休憩スペースとした。また旧池田家には佐賀の焼き物の貸出・展示・販売するギャラリーを配置することで、料理と焼き物を同時に体験できる施設とする。

8 水路側空間の活用



建物の南側はヒューマンスケールで水路が通る落ち着いた空間が広がっている。その空間を奥庭のように活用するため、既存の縁側を延長し水路との距離感を締め、周辺には植栽を配置する。縁側の素材は既存とは異なるものを用いることで区別する。個性を強調する共通のサインデザイン

別々になっている各建物を土間の拡張や開口を開けることによって、既存の要素を用いながらつなげる。つなげることで作業に必要なスペースを確保したり、各棟の存在を感得るようになり、目標の一つの施設として一体的に利用することができ、3棟に共通のデザインを持つサインを配置することで一体感を持たせ、茅葺屋根の3棟が並ぶ独自の個性をブランドとして強調することができる。また建物の外観には手を加えないため、歴史の景観を守りながら魅力向上につなげることができる。